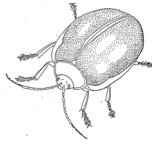


# たんぽう



## 兵庫県におけるクロシオヒサゴカスミカメの記録

里見太輔

クロシオヒサゴカスミカメ *Hyseloecus tamaderai* Yasunaga & Duwal (チビカスミカメ亜科 Phylinae: ヒョウタンカスミカメ族 Pilophorini) は, 神奈川県小田原市産の個体を基に記載され, 三重県, 和歌山県, 宮崎県, 屋久島, 種子島, 沖縄島, 西表島産の標本も同種のパラタイプに指定されている (Yasunaga & Duwal, 2025). 和名の通り黒潮に沿うような分布を示す.

本種は, これまでオオバヤドリギとニンドウバノヤドリギに寄生することが知られていたが, 筆者は最近, 兵庫県で本種の成虫 3 個体をマツグミから採集した. そこで, クロシオヒサゴカスミカメを本県からの初めて記録するとともに, 新たな寄主植物を報告する.

なお, 標本は全て兵庫県立人と自然の博物館にて保管される.

### 【採集記録】

2♂♂ 1♀, 兵庫県芦屋市奥池, 23. IX. 2025, 筆者採集 (図 1a)

上記の個体はアカマツに寄生しているマツグミ (オオバヤドリギ科マツグミ属) の葉をスウィープして得られた (図 1b). 本種の寄主植物としてオオバヤドリギとニンドウバノヤドリギ (オオバヤドリギ科マツグミ属) が確認されていたが (Yasunaga & Duwal, 2025), 複数個体得られていることから, マツグミも本種の寄主植物の一つとなっていることはほぼ疑いない.

末筆ではあるが, 本種を同定いただき, 文献情報の提供及び本文を校閲いただいた安永智秀氏, 標本を撮影いただいた松原 慧氏に心より御礼申し上げます.

### ○引用文献

Yasunaga, T., & Duwal, R.K., 2025. Three new species of the plant bug tribe Pilophorini from Japan (Hemiptera: Heteroptera: Miridae: Phylinae). *Zootaxa*, 5632(3): 531–546.

(Daisuke SATOMI 兵庫県立人と自然の博物館)



図 1. クロシオヒサゴカスミカメと生態環境. a, クロシオヒサゴカスミカメ♂ (芦屋市産, スケールは 1mm); b, 本種が得られたマツグミ.

## 兵庫県におけるシンリョクナガタマムシの記録

里見太輔

シンリョクナガタマムシ *Agrilus viridis* (Linnaeus, 1758) は, 国内では, 北海道・本州・四国に分布し, ヤナギ属, シラカバ属, ニレ属, コナラ属などの幅広い樹種から採集されている (大桃・福富, 2013; 福富ら, 2022).

筆者はこれまでに記録のないと思われる兵庫県で本種を採集しているため報告する. なお, 標本は兵庫県立人と自然の博物館にて保管される.

### 【採集記録】

5♀♀, 兵庫県養父市鶴縄大段ヶ平, 13. VII. 2025, 筆者採集・兵庫県立人と自然の博物館にて保管 (図 1a)

本種の同定は, タマムシハンドブック (福富ら, 2022) を参考に, 内側隆線が短く, 前胸腹板突起が舌状であることからシンリョクナガタマムシとした (図 1b-c). 得られた個体は全て赤みがかった茶褐色であった.

採集時の状況として, 標高 1100m 付近のイタヤカエデ (ムクロジ科カエデ属) のスウィープにより本種を採集した (図 1d).

末筆ではあるが, 本種の同定についてアドバイスをいただいた板倉充洋氏, 山田航氏, 標本を撮影いただいた松原慧氏に心より御礼申し上げます.

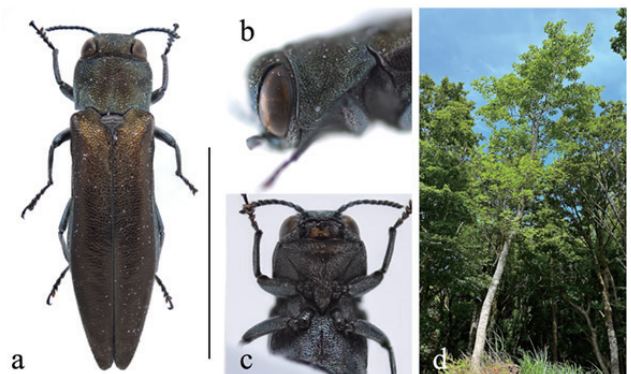


図 1. シンリョクナガタマムシと生態環境. a, シンリョクナガタマムシ♀ (養父市産, スケールは 5mm); b, 内側隆線; c, 前胸腹板突起; d, 本種が得られたイタヤカエデ.